

福岡県立山門高等学校



同窓会だより

2010.3.1

第13号

山門高等学校
創立97周年

OBを迎えて記念講演



講師 (株) JAL エクスプレス取締役

木元正和氏

(昭和44年卒)



昨年、10月31日に創立97周年記念行事が開催され、(株) JAL エクスプレス取締役の木元正和氏をお迎えし、記念講演が行われました。講演では、本校を卒業してから JAL 入社までのいきさつ、旅行の楽しさや注意点などを様々な経験談を交えながら語っていただきました。また、今後、社会人となっていく生徒たちに対しては、社会を生き抜いていくために、「将来、何を目指していくのか自分

の信念にそったビジョン(人生観)を持つ」「仲間と共感を持つ」「社会のルールを守り、周りに気遣いができる」ことの大切さと、自分が気になることは「何でも見てやろう！何でもやってみよう！」という積極性、自分のゴールに向かって進むことをあきらめない気持ちが必要であること…等を伝えていただきました。

温故知新



山門高校同窓会
会長
板橋 元昭

山門高校同窓生の皆様にはお健やかに新しい年をお迎えのことと存じます。

さて、昨年は皆様のご協力をいただき四月十一日には福岡市内の西日本新聞会館国際ホールに於て福岡山門会館を、十月十八日には東京都内の九段会館に於て関東支部総会を開催していただきました。

それぞれに周辺地域在住の同窓生の皆様のご参加のもと、なごやかな雰囲気の中に大変楽しい会が行われたことを誠に有難く嬉しく存じております。

論語に温故知新という言葉があります。辞書を引くと、「古きをたずねて新しきを知る」とありとあります。私達は日々の暮らしの中で多用に取り入れ、過去を振り返って将来を考えようという気持を忘れがちです。

私が高校・大学生活を送った昭和二十年後半から三十年代、第二次世界大戦後の日本の復興期には都会は都会らしく、地方は地方らしくそれぞれに街には活気がみなぎっていました。

た様に思います。

昭和三十九年の第十六回東京オリンピック後の昭和四十年代から五十年代、日本は経済の急成長期には入り、地方は地方から都会へと変り、地方は活力をなくし、過疎化の現象が広がりました。昭和の末期から平成の初めまで、平成十年代、日本経済はバブル現象が崩壊し成長が止まり、出生人口の減少は地方に人口高齢化をもたらすこととなり、日本の社会は至な状況となりました。

この様な環境の変化は私達同窓生の動きにも、母校山門高校のあり方にも、又学校周辺の父兄の考えにも大きな影響を及ぼしています。

山門高校を卒業した同窓生の多くが故郷を離れ都会で仕事に就き、そこに生活の拠点を構える、その人達と地元にいる人達を何故なる絆で結ぶのか、同じ学び舎で青春を共有した仲間が集う同窓会はどの様な役割を果たすべきなのか、社会の急激な変遷を感じながら、新に考えさせられるところです。

間もなく山門高校は創立百周年を迎えます。過ぎ去った百年を柱石として、次なる百年確かな歩みが続けられる様、同窓会が責務を果たしてゆける環境を整備してゆきたいと願っています。

学ぶことは生きること

一夢と希望を

もつために



山門高校
校長
井上 正明

同窓会の皆様方には平素から本校の教育活動に對しまして、物心両面から多大なご支援を賜り、感謝申し上げます。ご承知のとおり平成二十二年(2010)年国内では政治・経済の混迷が続き、国の進むべき道は語られず、マスコミはおもしろおかしくその場しのぎの話題づくりに余念がない。特に経済の混乱に伴い雇用の問題が重大で、高校卒業時にも希望どおりの就職ができない、大学生の就職についても十分な方策がなされていないことが話題になっていきます。

文豪芥川龍之介は「ほんやりとした不安」と、自分の将来について言及をした。昨今の不安定な時代、曖昧模稜とした時代にあっても、人は「夢」「希望」「未来」に向かって歩もうとするものなのです。そして、これらの「夢」「希望」「未来」というのは人間だけがもつことができる、これからの時代を切り開いていくための人間の叡智とも言えるもの

なのです。

学校教育では、苦勞をしない生き方、安全・安心を与えられた生活ではなく、苦勞を乗り越える生き方、安全・安心に暮らす生活の仕方をするためには何が大切かを学ばなければならぬのです。困難にうち当たった時や苦勞をする時に、それでも乗り越えなければならぬ時に、「希望」「夢」が、人を動かす力になるのです。人は言葉を使う動物です。言葉を大切にしない人は言葉の力に負けるのです。逆に、言葉を大切にすることは言葉から勇氣をもらうのです。

歴史を学べば分かるように、どのような時代にあっても人は困難に立ち向かい、絶望を乗り越え、不安を打ち払い、人としての歩みを一歩踏み出して、歴史を切り開いてきました。その

人の心の中にあつたのは間違いなく「夢」であり「希望」という言葉であつたのです。

これからの社会はこれまで以上に環境問題等の地球規模の問題の解決が求められる時代の到来が予想されます。そのような時代を生きていくためには、これまでの歴史を学ぶことが大切です。その中に、「学ぶ」ことの大切さを説いた人物がいます。江戸時代の儒学者佐藤一齋は「少にして学べば、即ち社にして為すあり。社にして学べば即ち老いて衰えず。老いて学べば即ち死して朽ちず」教えています。

社会がどのように変化しようとも、人は学び続ける限り「希望」や「夢」をもつことができるのです。



▲矢部川

同窓会総会を終えて

前年度実行委員長 六十二年卒 井口 秀成

同窓会総会の開催におきまして、井上校長先生をはじめ職員のみなさま、在校生のみなさん、そして山門高校同窓会板橋会長をはじめ役員のみなさまに心よりお礼申し上げます。

景気低迷による先が見えない不況が続くなか、このように同窓会総会が盛会に終えることができたのも、母校である山門高校の歴史と伝統のおかげだと改めて感じました。また、山門高校卒業生としての誇り、母校に対する愛情の深さを持ってもらえる同窓生のみなさんに接することができ、感銘を受けました。昭和六十二年卒の実行委員会を代表いたしまして、みなさまのご支援とご協力で衷心から感謝申し上げます。

さて、今回「夢へ向かって！自分らしく生きるために！」をテーマに開催しました。

第1部の総会におきましては、役員の皆様のご協力をもちまして滞りなく議案が審議されました。

第2部の講演会では元阪神タイガースの掛布雅之氏をお招きし「一球入魂にかけた私のプロ野球人生」と題し、ご講演いただきました。掛布氏は、阪神タイガースの不動の主軸打者として、本塁打王を3回、バストナインを7回、ダイヤモンドグラブ賞を6回受賞されるなど、ミスタータイガースと呼ばれ一世を風靡された方で、活



躍されていた時をリアルタイムで見ている私は、講演をすこく楽しみにしていました。少年時代から父親の影響で野球を始めたこと、入団テストを受けてドラフト指名されたこと、春のキャンプでプロとして徹底的に鍛えられ、開幕一軍入りを果たしたこと等々、目標希望を持って頑張ってきたため、目撃した熱いメッセージを伝えていただきました。講演会終了後は、山門高校野球部員との意見交換、写真撮影をしていただき、生徒たちには大変な刺激だったのではないのでしょうか。

第3部の懇親会の前に、初めての試みとなりましたが、現役山門高校ブラスバンド部から数曲生演奏を披露してもらい、予想以上に盛り上がり、予想以上の乾杯の後、学年同士はもちろん、学



年の枠を超えた同窓生の交流が始まり、いたる所で記念撮影が行われていました。また、スタッフとして頑張ってくれている同級生の頑張りにも胸が熱くなりました。思い起こせば前年度の実行委員長から真新しいタスキを受け継いで以来、地元の同級生を中心に実行委員会を立ち上げ、先輩方からアドバイスをうけながら総会の成功に向け会議を続けてまいりました。

当日は130人の同級生が母校に集まり、同窓会総会の成功に向け一致団結できたことに山門高校への感謝と同級生の絆の深さ、人と人とのつながりを実感することができました。また、実行委員長という大役を経験することにより得たものを後輩たちに引き継いでいかなければと思っています。

最後になりますが、同窓会総会が未来水跡続きますように、また平成二十二年総会のさらなる発展を祈念申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

新名物先生

シリーズ

その④



中島貞行先生

私たちが昭和六十二年卒の三年時に学年主任としてご指導いただいた中島貞行先生にお話を伺いました。現在は教員を退職され、地域のボランティアや遺族会などで活躍されております。

◎山門高校での思い出は？

昭和五十六年から平成三年三月まで十年間山門高校にいました。思い出は学校行事すべてが思い出ですが、私はテニス部の女子の顧問をしていましたが、六十二年卒の学年は他の学年に比べ強かったので成績が良かったですね。ただ、高校のクラブ活動は、強くなることだけが目的ではなく、他の学年を含めた人間関係やその後につなげていくというのが必要なので難しかったですね。

また、当時は車の免許を持っていなかったのですが、筑後から学校までの約十二キロを乗り回す暑い日も通っていました。ある寒い朝に学校へ行く途中、水で滑ってひっくり返ってね、この時、ズボンが破れたけど、股引一枚で助かった。これが車の免許をとるきっかけになったのですよ。

私は南里三治先生と同じ時に山門高校に異動してきましたが、その南里先生と大津二三雄先生、

中村繁宏先生は当時ビッグ3と周りから呼ばれ、山門高校が得意とする数学を柱となって支えていた印象があります。

◎山門高校のことがいいなと思ったところを一つ

みんな仲がいいというか、みんながそれぞれ一生懸命になるものがある、フアイトがある生徒、心の中に考えを一本持っているというのを感じられる生徒が多かったように思う。また、山門高校では、いじめという言葉はあまり聞いたことがなかったですね。

◎在校生へのメッセージ

誰でも自分のいいところは必ず何かある。その辺に自信を持って伸ばしていくと良いと思います。もちろん苦手とするところもあると思うけど、それをあまり考えすぎると何も出来なくなるので、自分で良いと思うところを大きく伸ばしていく、そして、自分に自信をつけていく。誰でも必ず何か持っていますし、自信を持つことで積極的になることも出来るので、このようにして自分に自信をつけて欲しいと思います。

◎ありがとうございます。これから益々のご健勝をお祈り申し上げます。

平成二十二年 同窓会総会に向けて テーマ「未来へ」

今、私たちにできること



実行委員長
昭和六十三年卒
坂田 光博

早春の候、同窓生の皆様におかれましては各方面にて益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。本年度の同窓会総会は私たち昭和63年卒が担当させていただきます。

卒業して22年、40歳を迎えた卒業生が協力して総会の企画運営を行うという山門高校の伝統行事。これまでこの行事に無縁だった私は昨年の総会に初めて参加させていただき、圧倒されるとともに、その大変さを思い知らされました。昨年5月3日、先輩から標を引き継いで以来、近隣に住んでいる同級生を中心に実行委員会を立ち上げました。何もかもが初めてで手探り状態でスタートするなか、諸先輩方から助言や激励の言葉を多数かけていただき、大変勇気づけられました。

元気をもらった私たちは、みんなに熱い思いを伝え、次第に協力してくれる同級生が増えてきました。卒業後をはじめて再会した友人も多数いましたが、みんな40歳になりそれぞれが社会の中心的役割を果たすような立場になっており、個々の持ち味を存分に生かしながら力を集結させて日々準備に頑張っております。そういう実

行委員会の活動は近隣だけでなく全国各地に住む同級生にも伝わり、遠くからも協力してくれるようになってきました。当時、同じ学舎で3年間過ごしたのに一度も話したことが無かった同級生でも同窓会総会の成功という同じ目標に向かってすぐに意気投合できました。このような機会を与えてくれた山門高校の伝統に感謝するとともに同窓会事業に参加できたことをとても嬉しく思い、この一度しかない機会を同級生の仲間たちと精一杯楽しみたいと思います。

この活動で私は、人との出会いを大切にしたいと今まで以上に思うようになりました。自分ひとりでは出来なかつたことでも、みんなで協力すれば大きな力になるのです。世代を問わず繋がった山門高校同窓生の堅い絆を大切に、この伝統ある標を途絶えることなく後輩達にも伝えていきたいと思えます。そういう願いをこめて本年度の同窓会テーマは「未来へ」
今、私たちにできること」とさせていただきます。

はれる世界的株安現象を引き起こしています。国内においてもウエルの脅威、アフレ、雇用対策など生活に不安を与える問題が山積しています。そんな情勢のなかによりよい社会をつくっていくために中堅世代として、私たちに何ができるのかを考えていきたいと思っています。

今回、講師には獨協大学教授で経済アナリストの森永卓郎氏をお迎えしております。「年収300万円時代を生き抜く経済学」というベストセラーにもなった著書の題名で講演していただきます。題名からもお察しの通り、今の時代に合った非常に興味深い内容だと思えますのでご期待下さい。その他にも色々なアトラクションを用意しておりますので5月3日は是非、山門高校へ足を運びください。担当学年同窓生一同、心よりお待ち申し上げ、笑顔で皆様をお迎えさせていただきますと思います。

最後になりましたが同窓会総会開催準備にあたり、快く施設を開放して下さいました山門高校と様々なアドバイス、手助けをいただきました諸先輩方に感謝し、皆様方の益々のご健勝を祈念いたしております。



▲ 森永 卓郎 氏

進路部より

進路指導主事 中村 辰男

同窓会の皆様方には、日頃からご支援・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

本校の進路指導は、「夢発見プラン」をベースに行っています。これは、学部学科及び職業を研究する机上活動と大学の先生による出前授業や生徒自ら大学を訪問するオープンキャンパス及び一日大学生等の体験活動からなり、一年次から体系的に行う進路学習です。また、昨年度の一年生よりバッチャル入試を導入し、生徒の進路意識の向上を図っています。その中で生徒は、自分の将来像を描きながら、目標に向けて努力しているところですよ。

進路状況は一月八日現在で、推薦入試において熊本大学・鹿児島大学・同志社大学・関西大学・西南学院大学各一名、福岡大学四名等四十名の合格を出しています。公務員では、国家三種、防衛省、県職など延べ十五名が最終合格をしており、近年では最高の実績を残しています。また、防衛大は一二名が一次合格をしています。この結果は、これから国公立大学や難関私立大学を受験する生徒に大きな力を与え、必ず良い結果をもたらすものと確信しております。

福岡山門会 総会のご案内

- 〔名称〕 福岡山門会総会・懇親会
- 〔日時〕 平成二十二年四月十日(土) 午後一時受付午後二時半開始
- 〔場所〕 福岡国際ホール博多大丸16階 092-(72)8855
- 〔会費〕 男性 七千円 女性 六千円
- 〔問い合わせ先〕 092-8654335 例樋口商会 樋口

平成 21 年度卒業生

同窓会クラス役員

	男子	女子
1組	高山 隼斗	田中 千絵
2組	藤田 源平	的場 千佳
3組	龍 健太	岡野 沙希
4組	本村 拓人	井上 裕美
5組	〇千々岩 理	〇船添 咲子

(〇は学年代表)



平成 16 年度制定の
山門高校エンブレム
清水山の巻じ車伝説がモチーフ

編集室より
本年の会報13号は、昭和62年卒の実行委員会が編集いたしました。快く寄稿していただき感謝いたします。

